# ２０２２年度事業報告

（ＪＫＡ競輪補助事業）

## 事　業　の　目　的

全国の刑務所、少年院施設等に収容されている被収容者に対し、中央または各矯正管区管内の篤志面接委員協議会において、篤志面接委員を一堂に会して、篤志面接活動に必要な、知識、技術の向上、付与又は情報の交換を行う研修事業である。

（１）中央（全国大会）

○　開催日

２０２２年１０月１７日（月）

○　開催場所

東京都　法務省地下大会議室

○　参加人員

計　８４名（篤志面接委員５１名　その他関係者３３名）

○　講演

演題「矯正の現状と課題～法改正を中心として～」

講師　法務省矯正局長　　花村　博文　氏

○　研究発表

議題「時代に応じた篤志面接活動の意義と役割の再発見　！！」

サブテーマ　～これからの社会とのつながりを求めて～

「『反省』と『感謝』の心を大切に」

大阪拘置所篤志面接委員　　大橋　恵真

「道徳教育を通して主体的・自律的に生きる」

尾道刑務支所篤志面接委員　　高橋　正明

「試行錯誤」

盛岡少年院篤志面接委員　　田村　幹雄

「社会復帰と地域社会」

松山学園篤志面接委員　　田中　勝彦

○　パネルディスカッション

議題「これからの社会とのつながりを求めて」

| | | |
|---|---|---|
| 進行 | 全国篤志面接委員連盟理事 | 阿部　憲仁 |
| パネラー | 大阪拘置所篤志面接委員 | 大橋　恵真 |
| | 尾道刑務支所篤志面接委員 | 高橋　正明 |
| | 盛岡少年院篤志面接委員 | 田村　幹雄 |
| | 松山学園篤志面接委員 | 田中　勝彦 |
| | 川越少年刑務所教育部首席矯正処遇官 | 那須　昭宏　氏 |
| | 多摩少年院教育部門首席専門官 | 大門　貴彦　氏 |

会場入口

基調講演

研究発表

パネルディスカッション

（２）初任者研修会

〇開催日

２０２２年１２月１３日（火）・１４日（水）

〇　開催場所

東京都　法務省地下大会議室

〇　参加人員

計　６９名　（篤志面接委員　６２名　　その他関係者　７名）

〇　内容

一日目

講話Ⅰ　「矯正行政と篤志面接活動の意義」～刑事施設を中心に～

講師　矯正局成人矯正課企画官　　佐伯　　温　氏

講話Ⅱ　「矯正行政と篤志面接活動の意義」～少年院を中心に～

講師　矯正局少年矯正課企画官　　藤原　尚子　氏

講話Ⅲ　「篤志面接活動の歴史・制度と現在の課題」

講師　全国篤志面接委員連盟理事長　　室井　誠一

班別討議Ⅰ　精神的煩悶・個人面接・各種指導等の８班に分かれて討議

講話Ⅳ　「面接指導技術」

講師　東京未来大学こども心理学部長　教授　　出口　保行　氏

二日目

講話Ⅴ　「篤志面接活動を体験して」

講師　全国篤志面接委員連盟副会長　　井上　　廣

講師　全国篤志面接委員連盟常任理事　　佐藤　良彦

班別討議Ⅱ　精神的煩悶・個人面接・各種指導等８班に分かれて討議

Ａ班（精神的煩悶等）

Ｂ班（精神的煩悶・家庭相談・個人面接等）

Ｃ班（法律相談・職業相談・宗教上の問題等）

Ｄ班（教科指導・道徳的指導・短歌・俳句等）

Ｅ班（音楽・将棋・改善指導等）

Ｆ班（保護相談・更生保護・社会福祉等）

Ｇ班（釈放前指導・宗教相談等）

Ｈ班（刑執行開始時指導・釈放前指導等）

会場案内

会場全景

班別討議

2022/12/14

講話

矯正行政と篤志面接活動の意義
～刑事施設を中心に～
法務省矯正局成人矯正課企画官
佐伯　温
2022/12/13

（３）仙台

○　開催日

２０２２年７月８日（金）

○　開催場所

青森市　ホテル青森　４階　錦鶏の間

○　参加人員

計　５２名（篤志面接委員３８名　その他関係者１４名）

○　講演

演題「加害者家族の現状と支援について」

講師　特定非営利活動法人World Open Heart代表　阿部　恭子　氏

○　研究討議

討議題「気付く、豊かな心を育む面接活動」

発表者　秋田刑務所篤志面接委員　　古田　重明

盛岡少年刑務所篤志面接委員　千田　道顕

盛岡少年院篤志面接委員　　渡部　航士郎

東北少年院篤志面接委員　　英　　祥元

会場入口

会場全体

講演

研究討議

（４）東京

○　開催日

２０２２年１１月２１日（月）

○　開催場所

さいたま市　さいたま新都心合同庁舎２号館５階大会議室

○　参加人員

計　８２名（篤志面接委員７４　名　その他関係者８名）

○　講演

演題「篤志面接委員の現状と課題～拘禁刑下において期待される役割～」

講師　東京矯正管区成人矯正調整官　　齊藤　峰　氏

○　個別発表

題目　「矯正施設での『英会話クラブ』－横浜刑務所の取組み」

発表者　横浜刑務所篤志面接委員　　宮尾　茂

題目　「特別改善指導「Ｒ６就労支援指導」の授業について

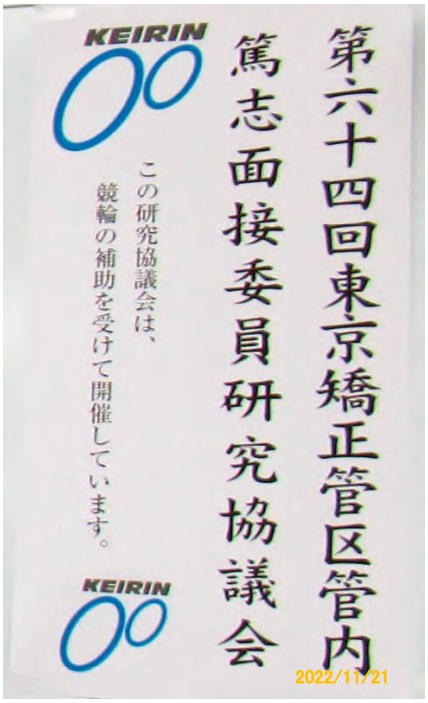
～健康で働く喜び、働ける喜びのために～」

発表者　新潟刑務所篤志面接委員　　川上　克義

題目　「再犯を防ぐ」

発表者　有明高原寮篤志面接委員　　宇治橋　淳

会場内看板




講演

会場全景

研究発表

（５）大阪

○　令和４（２０２２）年度大阪矯正管区管内篤志面接委員研究会研修教材の作成
（誌面による研修会の開催）

○　特別寄稿

演題　「いのちの声に呼応するとは」

講師　　川村　妙慶氏

○　研究発表

㋐題目「私の大切にしていること」

発表者　京都医療少年院所属篤志面接委員　　赤井 とみこ

㋑題目「心を磨く」

発表者　神戸刑務所所属篤志面接委員　　原田 恵一郎

㋒題目「人と社会的関係を持つために」

発表者　浪速少年院所属篤志面接委員　　當麻　円純

成　　果

（１）第３５回全国篤志面接委員大会

今回の基調講演は、今後の篤志面接委員活動に関係する有意義な内容であり、大変参考になったとの意見が多かったことから、刑法や少年法の一部改正に伴い、今後矯正施設が直面するであろう新たな課題や問題点に関して、より一層の理解と興味を深めることに結びついたと思料される。

また、研究発表及びパネルディスカッションにおいては、発表者の指導に対する熱意が感じられ、共感できる部分が多くあったことで、各委員の指導上の疑問や不安の解消と更なる活動意欲の向上に繋がったと思料される。

コロナ禍で自粛していたため、３年ぶりの開催となった研修大会で、人数制限も設けられていたとはいえ、対面で参加する形式の研修は、大いに刺激を受けたとの反応が多かった。今後も篤志面接委員に対し、最新の矯正情勢など必要な情報を提供していく場として対面研修を継続して行くことが適当であり、本大会は、成功裏に終了したものとの結論に達した。

（２）令和４年度（第９回）篤志面接委員初任者研修会

法務省矯正局の所管部署である成人矯正課及び少年矯正課の企画官による、法改正等を踏まえた矯正行政の現状と今後の課題等に関する講話については、豊富な資料を用いた詳しい説明がなされたことで、大きな変革期を迎えている矯正行政に関する初任者の理解が深まり、今後の篤志面接活動を行う上で大変有意義なものとなった。

「面接技術指導」と題した、東京未来大学こども心理学部長の出口保行氏による講話については、篤志面接委員の面接指導がすなわち「攻める防犯」機能を果たすものであるとのお話がなされたことで、篤志面接委員に期待される役割を再認識するとともに、最新の犯罪、非行に関する基本的な情報を理解することにつながったものと思料される。

班別討議は２日にわたり、地域、所属施設等の異なる５～８名の委員で班を構成し、連盟役員の司会進行で討議を進めた。各班とも、それぞれの活動内容や指導方法、活動に関する感想や悩みの他、委員としての抱負、所属施設や当連盟等に対する要望等について率直な意見交換がなされ、今後のボランティア活動に取り組む意欲の向上が図られたと思料される。

篤志面接活動は基本的に個人単位で行われることに加え、委嘱期間の短い初任者のため、他の委員の活動状況や指導方法等を聞く機会が殆どなかったことから、今回の討議は様々な委員の活動の実情や面接の方法などを学ぶ場となり、平素の不安や悩みを解消すると共に、今後の活動に向けた相互のネットワーク形成にも大きく貢献したものと思料される。

講話、班別討議ともに、参加者の研修ニーズに応えた内容であり、アンケート調査結果のとおり充実した研修会であった。研修を通して参加者が、篤志面接活動に必要な最新の情報を得るとともに、活動の多様な在り方を実感できたこと、及び活動の社会的使命を再確認することができたことなどから、本研修の所期の目的は達成されたと思料される。

（３）第６４回仙台矯正管区管内篤志面接委員研修大会

特別講演は、World Open Heart（全国で初めて犯罪加害者家族を対象とした各種相談業務や直接的支援を行っている特定非営利活動法人）代表である阿部恭子氏による講演を実施した。内容は、これまで関わってきた加害者家族を例に挙げ、加害者家族が直面している問題について解説するとともに、加害者家族のケアに関する具体的な取り組みや問題点などについて今後の展望を示されたものであった。

研究討議では、仙台矯正管区管内の篤志面接委員が普段は見聞きすることができない互いの活動状況に触れ、その活動に資する発表や内容の核心に触れた質疑応答が展開された。研究討議を通じて、各委員の面接又は指導技能が向上し、更にこれが活かされることで被収容者又は被収容少年の再犯、再非行防止に資するものと考えられる。特別講演、研究討議を通じて新たな発見もあり、有意義な研修大会となった。

（４）第６４回東京矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

講演の実施前に、当管区篤志面接委員協議会会長及び東京矯正管区長による感謝状の贈呈式が行われた。

講演については、東京矯正管区の齊藤成人矯正調整官を講師として協力を要請した。講演内では、刑法等の一部改正と拘禁刑の創設の概要について、作業や指導の目的が受刑者の改善更生にあることを刑法上明らかにするものであること、個々の受刑者の特性等に応じて、作業、各種指導（改善指導、教科指導）をベストミックスした処遇とすることなどの説明があり、各施設の拘禁刑の運用の先駆けとなる実践についても紹介があった。また、篤志面接委員の活動の歴史や現在の篤志面接委員の活動状況について説明があり、その上で拘禁刑の施行に向け、出所（院）後の生活の意欲を喚起する篤志面接活動の意義が述べられるなど、篤志面接委員の見識を深めるために大いに参考となる内容であった。

個別発表については、横浜刑務所の宮尾委員から「矯正施設での「英会話クラブ」ー横浜刑務所の取組み」と題して、指導の内容、指導方法及び今後の課題について、新潟刑務所の川上委員からは「特別改善指導「Ｒ６就労支援指導」の授業について～健康で働く喜び、働ける喜びのために～」と題して、事例を挙げながら被収容者を就労につなぐために工夫している点について、有明高原寮の宇治橋委員からは「再犯を防ぐ」と題して、事例を挙げながら被収容者との関わり方について工夫している点について発表があった。いずれも篤志面接委員の指導技術を向上するために大いに参考となる内容であった。

（４）令和４年度大阪矯正管区管内篤志面接研究会

講演に代わる特別寄稿は、「人間の生き方」、「自身が僧侶になったきっかけ」、「仏説感無量寿経にある話」、「僧侶以外の仕事においての体験談」の４部で構成されているところ、いずれもその根底には、人と人との縁の大切さ、そして、共感力、想像力及び思いやりを持つことの大切さといった視点があり、今後の篤志面接活動において、大変参考になる内容であった。

また、篤志面接委員による体験発表は、発表者それぞれが、在院者や被収容者の改善更生及び円滑な社会復帰に向けて、熱意をもって取り組んでいる様子が生き生きと伝わる内容であり、篤志面接活動のあるべき姿を再確認することができた。

以上のように、本研究会は、誌面での開催ではあったが、活動状況に係る写真の掲載なども含め、内容の充実を図ったことにより、各篤志面接委員の見識が更に深ま

り、今後の活動に対して大いに参考となる大変有意義なものになったと考えられる。

今後予想される効果

コロナ禍では刑務所や少年院等の矯正施設において篤志面接活動は縮小されていたが、行動制限の解除を受け、徐々に活動が再開してきた今年度にやっと対面型の研修会を開催することができた。この研修を通し、矯正行政の最新の実情や方向性や活動における様々な知識・技術等が付与され、今後の篤志面接委員活動への意欲が一層喚起されたと思料される。

昨年刑法等の一部改正によって刑事施設においては従来の懲役・禁錮が廃止され、拘禁刑が創設されたことで、受刑者の改善更生を図るために作業と指導の組合せによって個々の受刑者の特性に応じた柔軟な処遇を実施できるようになり、国の職員ではできない専門性を生かした篤志面接活動の新たな活躍が期待され、社会的ニーズに合った効果的な篤志面接活動を展開し，被収容者の再犯や再非行の防止に貢献する大きな効果があると予想される。

また、本大会の記録誌を作成し、参加できなかった篤志面接委員にも配付することによって、最新の矯正行政の現状及び課題や篤志面接活動における様々な知識・技術等が付与されるとともに、今後の活動意欲を向上させ、被収容者の抱える問題に応じた高度な面接活動が実施されると予想されます。